

第18回感性認知ビジネス実践部会 議事録

日 時：2011年 3月 7日

15:00～18:00

場 所：貸会議室 オフィス東京

出席者：部会員58名中11名

1、小阪部会長から博士号取得報告

3月19日に学位授与式があり、博士号（情報学）を取得しました。

研究内容を言うと、社会現象を科学するモデリングと言われる工学技法（システム思考とシステムダイナミックス）を使ってビジネスのシュミレーションができるソフトを開発しました。例えば、ある会社で絆づくりができていなかったら、売上のどのくらいの差が出ていたかというシュミレーションが可能になるものです。

報告後、学位取得を祝して、出席部会委員で記念品を贈った

「会員とともに取得した。エビデンスは全て会員のもの」小阪部会長から感謝の言葉が述べられた。

2、日本感性工学会春季大会報告

小阪部会長より報告。

1) 3月3日、4日 日本感性工学会の春季大会が九州大学で行われました。テーマは「感性とデザイン」。

2) 九州大学芸術工学研究院、丸野俊一先生（認知発達心理学）の基調講演「“完成なき感性”について考える・「快適さの追求」と「主体性の喪失」との狭間から」がとても印象的で学びになりました。講演の冒頭で、小林秀雄氏の言葉「美しい花など存在しない」が引用されていました。価値は人間の頭の中にしか存在しない。感性とは状況依存的であるということです。

また、身体で思考することが大事であり、小さいころから感性教育をした方がいい。

子どもが生きている世界は主体的、非日常的でありふれた物が存在しないと述べていました。小さな時から3D、バーチャルを与えると危険であり、新しい世界を創造する能動性が失われる可能性があるということです。

、差異感性性 = ちょっとした違いに敏感

、意味感性性 = 表面的には見えない関係に気付く

、価値感性性 = ほのかな存在にも目を向ける

この3つが大切であるとおっしゃっていました。

3) 今林 泰（九州旅客鉄道株式会社・事業開発本部 / 博多駅開発本部・部長）「生まれ変わる博多駅・九州新幹線とJR博多シティに対するJR九州の取組み」の講演からも学びがあった。JR九州は、列車のデザインなど感性分野に積極的に投資している会社です。

マネジメント・オブ・デザイン（MOD）が出来た会社で、旅客を呼び込む努力をしている。何もしないと赤字になる環境下で、列車のデザインや車窓からの風景に力を入れる取り組みで、旅客を増やしているそうです。

4) 「公共デザインに楽しさの要素を入れるとどうなるか？」の研究発表から

フォルクスワーゲンの協力による、駅の階段とエスカレーターを使った実験が紹介されていました。通常、楽なエスカレーターを使うが、階段を踏むとピアノ音がするように改造したら、階段利用者が大幅に増えたそうです。

韓国でも、バスの停留場に楽しい仕掛けをしたら、待つことに対するストレスが軽減された。

ここから、人は、楽なほうよりも、楽しい方を選ぶという傾向を示唆している。

5) サービス工学、サービスサイエンスの研究発表から

マズローの欲求5段階説の各段階をサービス設計の参考にする。

工業社会では価値は等価交換。売買時に価値が最大であるのに対し、感性社会では、経験時に価値が最大になる。

岩上さん：施術中にスタッフがマラソンに参加したことに触れ、自分の夢を語っている。そしてお客様に有料（1,000円）のポストカードに夢を書いて、5年後の自分に送るというイベントを行っている。

小阪部会長：これが高度化した欲求に対応したサービス構築です。

3、秋季大会の相談

9月3日、4日、5日に日本感性工学会秋季大会が開催される。会場は工学院大学。

テーマ「製品と感性工学」

当部会ですべき事を検討

実行委員会の協力（講演を行うか？）

企画セッション。テーマを決めてしっかり準備する。

4、KEER2012

台湾で行われるので、是非ご参加下さい。

2012年4月23日～26日

5、その他

次回開催：6月6日、7日、8日のいずれかを予定